



新潟市立山田小学校

コミュニティ・スクール通信

令和8年6月 第1号発行



コミュニティ・スクール（CS）＝学校運営協議会制度

学校運営協議会制度とは、学校と保護者や地域の皆様がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら、未来を担う子どもの豊かな成長を「地域総がかり」で支える仕組みです。

コミュニティ・スクールでは、学校運営協議会を設置し、学校運営の基本方針を共有し、学校運営や子どもに必要な支援について、地域と学校が一体となって話し合いを行います。

令和8年度 第1回学校運営協議会が開催されました

令和8年5月13日(水)、山田小学校地域ボランティア室において、第1回学校運営協議会が開催されました。学校運営協議会委員の皆様からご出席いただき、今年度の山田小学校の取組について、情報共有と意見交換を行いました。

今年度より会長を務めていただくPTA会長の大島様よりご挨拶をいただき、委員の委嘱と自己紹介に続き、5時間目の授業を参観していただきました。グラウンドでは運動会の練習を行う5・6年生の様子もご覧いただきました。



1 内 容

- (1) 開会のあいさつ（協議会会長）
- (2) 新潟市教育委員会よりのVTR視聴（学校運営協議会について）
- (3) 学校運営の基本方針・学校教育ビジョンについて（校長）
- (4) 学校評価について（各推進委員会主任）
- (5) 令和8年度教育活動・学校行事について（教務主任）
- (6) 地域と学校パートナーシップ事業内容について（地域教育コーディネーター）
- (7) 意見・情報交換
- (8) 閉会の挨拶（校長）

2 協 議

一部抜粋してご紹介いたします。

- ・学校評価において行っている児童アンケートについて、実施方法や頻度などを教えてほしい。
→ 年2回、7月と11月に全校児童を対象に、基本的にはタブレット端末を使用して実施している。低学年では、アンケート用紙を使用することもある。

・学力向上推進委員会の評価基準の変更について、「学習課題の提示」→「追求活動」→「まとめ・振り返り」という授業の流れが教員の中で共有ができています。



→ 「学習課題の提示」→「追求活動」→「まとめ・振り返り」という流れは教員間で共有し、毎時間行うことが基本として定着している。ただ、児童が“学びが深まった”と自覚するところまでは至っていない。学習を通して、児童が「何を学んだか」「どう学びが広がったり、深まったりしたか」を自覚できるよう、また、教員もまとめにおいて、児童自身の考えの変容を確認するなどの工夫ができるようにするため、昨年度の「よりよい考えをもつことができた」から今年度は「学びの広がりや深まりがあった」に変更し、評価項目とした。

・教育委員会のVTRにあった『熟議と協働』について、委員や地域住民として具体的に何ができるのか、何をしたらいいのかを教えてください。

→ 新潟市教育委員会の文書では、「学校の教育方針などについて、意見をいただき、方向性を示していただくのが、学校運営協議会であり、実際に活動していくのがパートナーシップ事業などである」と提示されている。今回の会議も“協働”の一つの形であり、昨年度第2回の協議会で行った「今、山田小の子どもたちに付けたい力」についてのファシリテーションは“熟議”の一つとして捉えている。《委員より》学校側から、学校でできることや一緒にできる活動など、ぜひ提案していただくと良いのではと思っています。



・校長より平日の電話対応時間について説明

新潟市教育委員会より教職員の適正な勤務のため、電話対応時間について、勤務時間に限ることが基本とされた。本校の実態を踏まえ、『平日7:45～17:00』とすることを伝えさせていただいた。

令和8年度 山田小学校 学校運営協議会委員

会長	大島将則	(PTA会長)
副会長	渡部 仁	(後援会代表)
委員	藤橋雅廣	(ふれあい協議会会長)
	植村裕子	(スポーツ振興会運営主任)
	田代一郎	(山田連合自治会総代)
	渡邊 徹	(元小学校校長・民生委員・民生児童委員)
	塚原みどり	(山田ひまわりクラブ主任)
	倉井清子	(元主任児童委員・子ども見守り隊)
	霜山和希	(PTA副会長)
	佐久間郁子	(山田小学校校長)
	野澤諭史	(山田小学校教頭)
	渡邊泰治	(山田小学校教務主任)
事務員	青木玲子	(地域教育コーディネーター)

敬称略